

II. 細胞診と HPV-DNA 検査併用による子宮頸がん検診 ーその2ー

検診の開始年齢

細胞診と HPV-DNA 検査併用による子宮頸がん検診は 30 歳以上の女性に推奨される^{2,11)}。30 歳未満の女性は高リスク型 HPV 感染率が高いため、併用検診は推奨されず、細胞診単独による検診が推奨される。

なお、細胞診 ASC-US のトリアージ検査として HPV-DNA 検査を実施する場合は全ての年齢に適用される。

検診の受診間隔

細胞診と HPV-DNA 検査がともに陰性であった 30 歳以上の低リスクの女性は 3 年後の受診を推奨する^{2,10-12)}。

検診の終了年齢

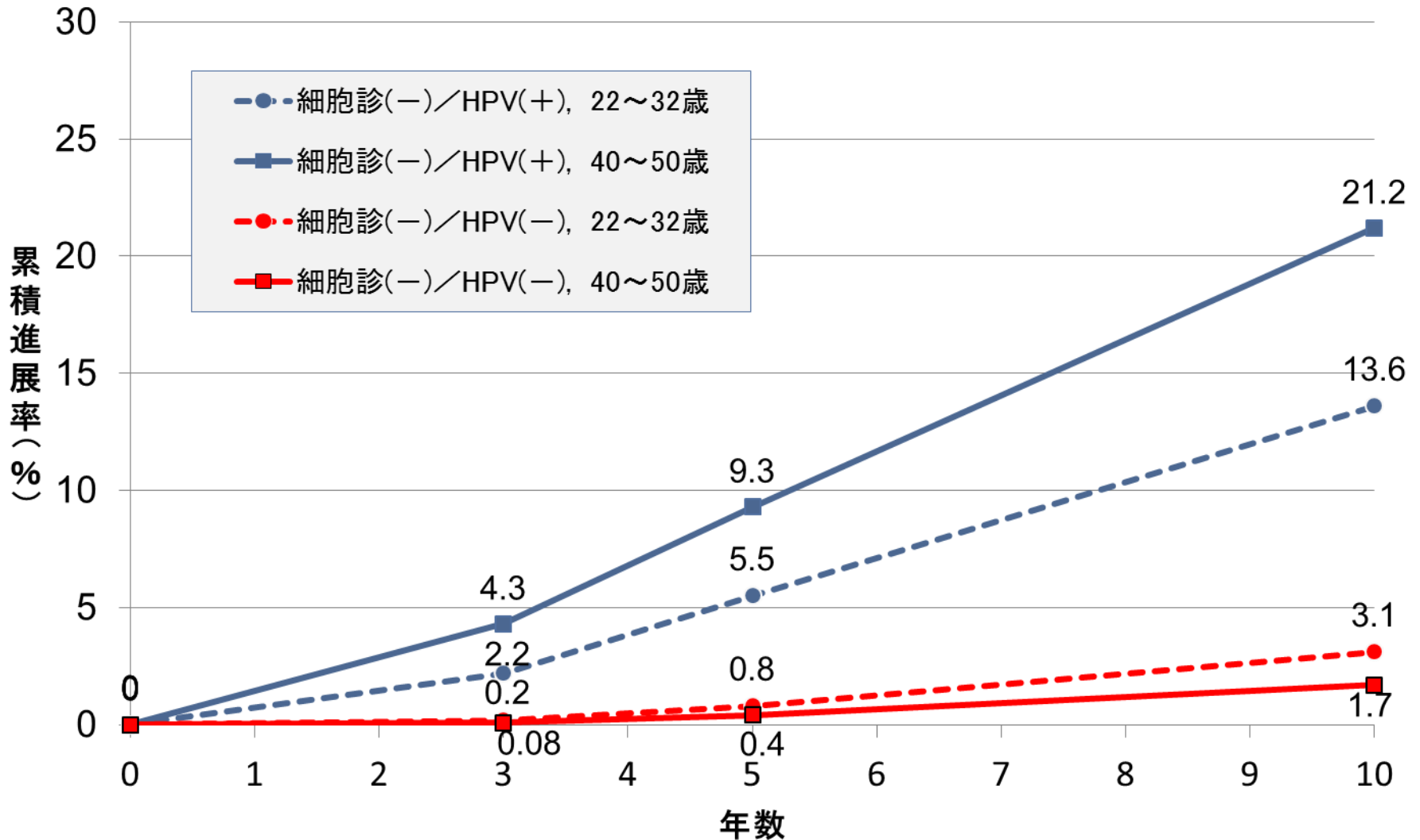
過去 10 年以内に細胞診異常がなく、連続 3 回以上細胞診が陰性であった 65 歳以上の女性は、最後の検診で細胞診と HPV-DNA 検査がともに陰性であれば検診を終了することができる^{2,11)}。

併用検診を適用すべきでない対象

30 歳未満の女性は一過性の感染が多いため、併用検診を実施すべきではなく、毎年細胞診を受けるべきである^{2,11)}。

また、良性疾患で子宮全摘出術を受けた女性は併用検診を実施すべきではない¹¹⁾。

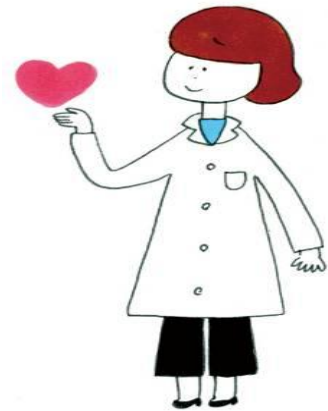
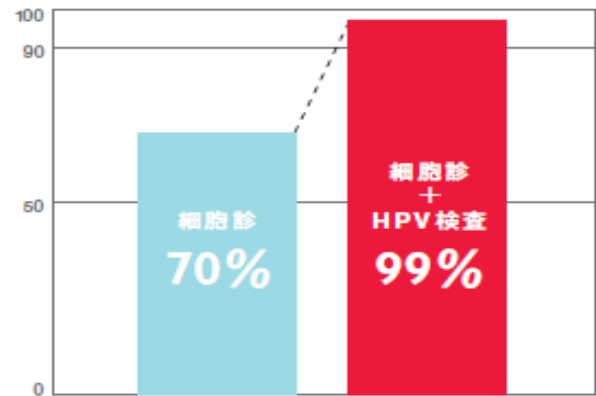
ダブルネガティブからのCIN3以上への進行リスク



Susanne Kjaer, et. al: Cancer Res 2006;66:(21), 2006 より作図

細胞診, HPV-DNA検査併用検診のメリット

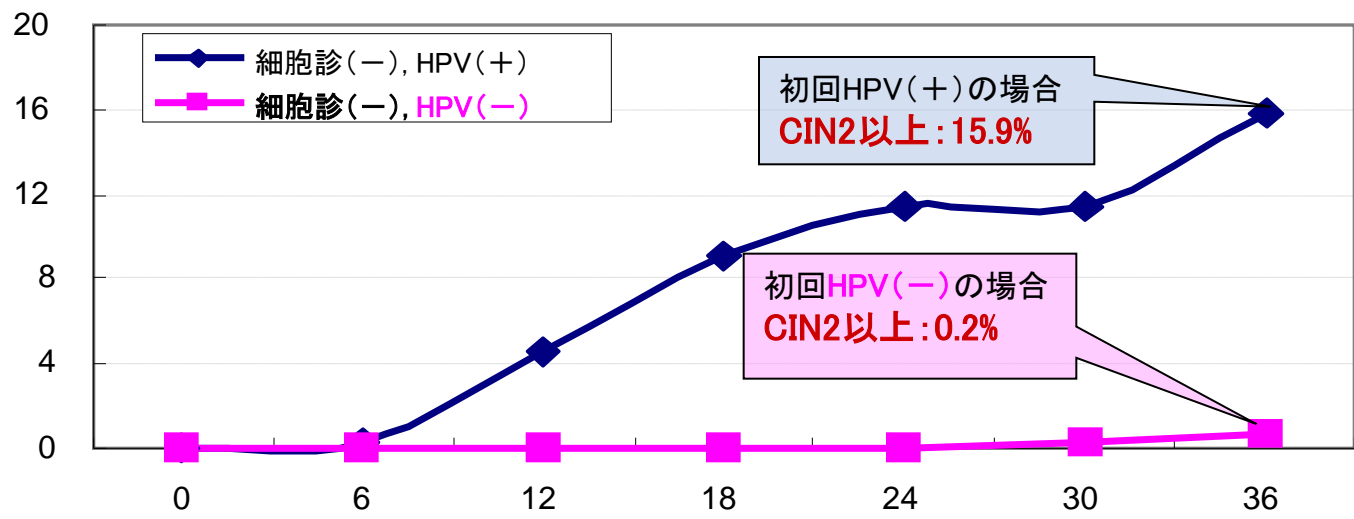
① 前がん病変をほぼ確実に発見できます。



中等度異形成以上の前がん病変の発見率

島根県立中央病院・岩成ら

② 将来の安心が得られます。



細胞診・HPV-DNA検査共に陰性ならば3年間は安心!